

第一・第二中学校区 適正化推進委員会たより No. 5

令和3年5月 発行
沼津市教育委員会事務局 教育企画課
所在地：沼津市御幸町 16-1
TEL：055-934-4821
E-mail：kyouiku-ki@city.numazu.lg.jp

日頃より本市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今回のたよりでは、令和3年4月8日（木）から13日（火）の期間に開催した保護者説明会の様子についてお伝えします。



4日間の保護者説明会で、様々な御意見を伺いました。

開催日	会場	参加人数
4月8日（木）午後7時から	青少年教育センター	15人
4月9日（金）午後7時から	第二地区センター	11人
4月12日（月）午後7時から	青少年教育センター	11人
4月13日（火）午後7時から	第二地区センター	13人



新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、保護者説明会を開催いたしました。年度初めのお忙しい中にも関わらず、御参加いただきましてありがとうございました。

今回の保護者説明会は、教育委員会としての考え方や適正化の進捗状況をお伝えした上で、保護者の皆様から、今どのようなことを感じ、どのようなことを考えていらっしゃるのかを伺うことを目的として開催いたしました。保護者から出された主な意見と教育委員会としての見解は次のとおりです。

※ …保護者からの意見、 …教育委員会の見解

適正化の取組やスケジュールについて

- ・令和5年4月に統合ということだが、本当に間に合うのか。
- ・現状では、学校も保護者も子供たちも困惑しかねない。決めてもらえれば、従うしかないので、早期に決めて欲しい。
- ・保護者説明会で意見を聞いていただいているが、最終的には誰がどのような場で決定するのか。
- ・決定した方針は、どのように、どのくらいのスピードで保護者に届くのか。
- ・第一と第二で統合しても、中学校は適正な規模にならない。他の中学校と統合することにはならないのか。長い目で見れば、第一小学校に小中一貫学校を建てれば良いのではないのか。
- ・複式学級を発生させないためならば、先に小学校だけを統合するなど、他にも方法があると思う。
- ・丁寧にやりすぎて、統合の話が頓挫するようなことはして欲しくない。通学距離は遠くなるが、第一小に通わせる覚悟はできている。

現在、千本小学校が複式学級を編制する規模にならないよう、今学期中（7月末まで）に方針を決定することを目途に取り組んでいます。先に小学校のみの統合という御意見もありますが、小学校で一緒に学んだ子供たちが、再度別々の中学校に通うことになってしまいます。また、現在の第一小学校の位置で、施設一体型の小中一貫学校にする案についても、教室数が不足するため校舎の建替えが必要となり、令和5年に間に合わないため候補から外したという経緯があります。

教育行政を預かる立場として、児童生徒の保護者が感じている不安要素を解消することを第一義とし、教育委員会が責任を持って方針を決定いたします。決定後、コロナウイルスの感染状況によって方法は異なりますが、保護者の皆様には速やかに報告いたします。

学校運営について

- ・統合することが決まっているのなら、各PTA同士が集まって方向性を話し合ったらどうか。
- ・学校の先生方は、行政が決めることと捉え、統合について知らないようであった。教育委員会と学校の先生方とで、情報共有していただきたい。

PTAの統合をはじめとした統合に向けての様々な準備には、保護者、学校、地域、関係機関等、多くの方々の御協力が必要となります。統合までの間に、これまでの戸田地区や長井崎中学校区等の事例を参考にし、保護者や推進委員の御意見も聞きながら統合に向けた準備を進めていきます。そのためにも、保護者、学校、地域との連携を密にし、情報共有を図っていきます。

なお、5月中に第一・第二中学校区の5つの小中学校に伺い、学校の先生方と情報共有する場を設定しております。

統合施設について

- ・子供たちの安全を第一に考えて統合先の学校を決めて欲しい。
- ・地区に学校を残すということだけの偏った意見で考えないで欲しい。
- ・統合する学校を合理的に説明できればどの学校でもよい。子供目線で、ちゃんと通えて、勉強して、部活ができて、子供の体力を必要以上に奪わない形で決めてもらえればよい。
- ・廊下の広さや教室と教室の間のスペースの広さ等、生活するうえで窮屈感がなく、居住空間、学習する空間として考えた時、第一中のほうが学びやすいと思う。
- ・校舎の耐震性の「Ia」「Ib」はどの程度の違いなのか。

教育行政を預かる立場として、子供たちの安全安心を第一に考えています。学校施設については、客観的な状況、保護者の皆様からの御意見を総合的に判断して決定いたします。

校舎の耐震性につきましては、「Ia」「Ib」「II」「III」の4段階あり、「Ia」及び「Ib」の建築物は、東海地震に対する耐震性能を有しています。なお、「Ia」と「Ib」の違いは以下のとおりとなります。

※静岡県ランク別の耐震性能と判定基準による東海地震に対する耐震性能

Ia…軽微な被害にとどまり、地震後も建物を継続して使用できる。

Ib…倒壊する危険性はないが、建物の継続使用の可否は、被災建築物応急危険度判定士の判定による。

災害リスクについて

- ・市としては、第一中と第二中のどちらのリスクが低いと考えているのか。
- ・想定外の津波を考えた時、海から遠いほうに行くのが普通の考えである。
- ・第一中学校西側の校区一部エリアにおいて、液状化が起こる危険度が大きいとのことだが、校区の西側とはどの辺りか。
- ・地盤が大丈夫でも、第二中は津波が心配である。通学途中に津波が来たらどのようにしたらよいか考えているか。
- ・東日本大震災のことを考えれば、海に向かって登校すること自体、時代に逆行している。

液状化が起こる危険度が高い第一中学校西側の一部エリアについて、具体的な場所を示すことは難しいですが、校舎が建っている所については、液状化が起こらないというボーリング調査の結果が出ています。また、津波のハザードマップから、どちらの学校においても津波の浸水域ではないと想定しています。

通学時等、学校に居ない時の防災については、津波避難ビルへの避難やハザードマップで予め確認した場所へ避難するなど、ソフト面において保護者、学校、地域、行政が一体となった訓練を積み重ねることで、安心を確保していきたいと考えています。

その他

- ・通学距離が遠くなる子供も出てくるので、スクールバスや自転車通学など検討して欲しい。
- ・統合後の跡施設を利用するという考え方はないか。
- ・制服についてはどこで決めるのか。
- ・統合後、コミュニティや子供会の運営はどのようにしていくのか。
- ・校区祭など、地域の行事がどのようになるのか心配。

通学、制服等については、保護者や推進委員の御意見を伺いながら、学校、関係機関と協議検討していきます。また、跡施設利用については、市役所内の関係部署と協議中です。

コミュニティや子供会については、教育委員会が所管するものではありませんが、関係機関とともに検討していきたいと考えています。